

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善をする。また開室時間の延長を検討する。	→「法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善状況(新たに確保できたスペースの広さ)および開室時間の延長の有無」	C	C	B	B	
2. TAの採用数を現在よりも増やして学生の多様な要求に対応できるようにする。	→「前期課程大学院生からのTA採用数」	D	C	B	B	
3. 教材作成、試験問題作成用の録音ブースを設置することで学生の外国語運用能力の育成をはかる。	→「録音ブース設置の有無」	D	B	A	A	
4. 学部単位の会議数および会議所要時間を現在より削減して研究時間を確保する。とくに長時間にわたる教授会は回数の削減とともに2時間以内に終了できるようにする。	→「会議数、会議時間の削減状況」	D	D	D	D	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年の夏に、1つの書庫を可動式に変更し収納スペースを約3倍とした点は、改善された点である。開室時間の延長は、職員数および勤務条件との関係で引き続き達成すべき目標である。
目標2	TAの採用数については、2009年度と比較して2倍以上、2011年度と比較して3倍以上に増加しており、目標達成に近い状態である。また、2012年度から、LAの採用を開始し、11名の採用がなされており、間接的ではあるが学生の多様な要求に対応しつつある。もっとも、学修相談件数は、数字の上では減少しており、この点の要因につき検討する必要がある。
目標3	2011年度に既に目標を達成している。
目標4	会議数、会議時間の削減は、未だ改善の傾向はみられない。なお、昨年度の教授会の平均時間数は約2.7時間であり、更なる工夫を必要とする。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】		単位	2009	2010	2011	2012	2013	備考	
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	14	12	10	12	11	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	0	17	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	13.8	18.0	17.4	16.1	16.9	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	14.2	15.0	18.0	12.4	12.7	
		講師	時間	—	—	—	—	—	
		助教	時間	—	—	—	—	—	

目標2の評価指標データ

教学補佐・TA採用者数・学修相談件数										
	教学補佐					研究員	小計	TA	学修相談件数	備考
	M1	M2	D1	D2	D3					
2004年度	8	18	3	1	3	0	33	—	—	—
2005年度	11	16	4	3	1	0	35	—	—	—
2006年度	10	20	1	4	3	0	38	—	—	—
2007年度	11	13	3	1	5	0	33	—	—	—
2008年度	10	11	2	3	3	0	29	春学期	—	—
								秋学期	4	8
2009年度	9	12	2	2	2	0	27	春学期	9	13
								秋学期	9	10
2010年度	9	11	2	2	2	4	30	春学期	6	6
								秋学期	9	6
2011年度	21	10	0	2	1	0	34	春学期	4	10
								秋学期	8	7
2012年度	14	14	2	0	2	0	32	春学期	18	1
								秋学期	21	5
TAの人数と内訳										
	2009		2010		2011		2012		<注意事項>	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	(1)上表・左表のTAの数は下記年度途中採用者の人数を含んでいません。	
前期課程	0	0	0	0	0	0	14	13	★2010年度年度途中採用者 4名(大学院研究員2名、研究科研究員2名)	
後期課程	9	9	6	6	4	3	4	4	(契約期間 7/16～7/31,9/21～12/22、1/6～2/11,3/18～3/31で契約)	
大学院研究員	0	0	0	2	0	5	0	3	★2011年度年度途中採用者 5名(大学院研究員5名)	
研究科研究員	0	0	0	1	0	0	0	1	(契約期間 7/1～7/31,9/1～12/22、1/6～3/31で契約)	
合計	9	9	6	9	4	8	18	21	★2012年度年度途中採用者 4名(大学院研究員4名)	
									(契約期間 7/1～7/13で契約)	
									(2)学修相談件数は申込者数	
LAの人数と内訳										
	2012									
	春	秋								
学部生	10	11	秋学期より学部生のための採用へ変更							
前期課程	1	0								
後期課程	0	0								
合計	11	11								